

【問4】 TPPの内容をどのくらい理解していますか。

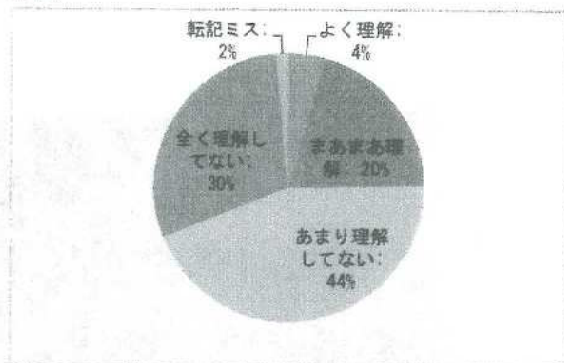
TPPについて、自分がどれほどの理解度を有していると自覚しているかを問う。TPP参加の是非につき様々な議論や運動が展開されてきたが、そこに反映されてきたのは、関係団体のメンバーや政治・行政に携わる者、そして現にTPPにつき利害関係を有すると考えられる者の意見、いわば「大人たちの意見」である。そのような状況下で、高校生がTPPとどのように向き合っているのかという疑問に端を発する問いである。

仮説 TPPのことは理解していないと自覚する者が多数派を占める

TPPの理解度を相対的に測る問いではないため、どの程度理解しているかは自己申告ということになるものの、理解していると答えられる者は少数にとどまるのではないだろうか。

結果 理解していると自覚するのは4人に1人ほど

よく理解	9
まあまあ理解	42
あまり理解してない	91
全く理解してない	61
転記ミス	3



考察 喜界島の高校生のTPP理解度は、一般的な理解度に比べ低いのか高いのか

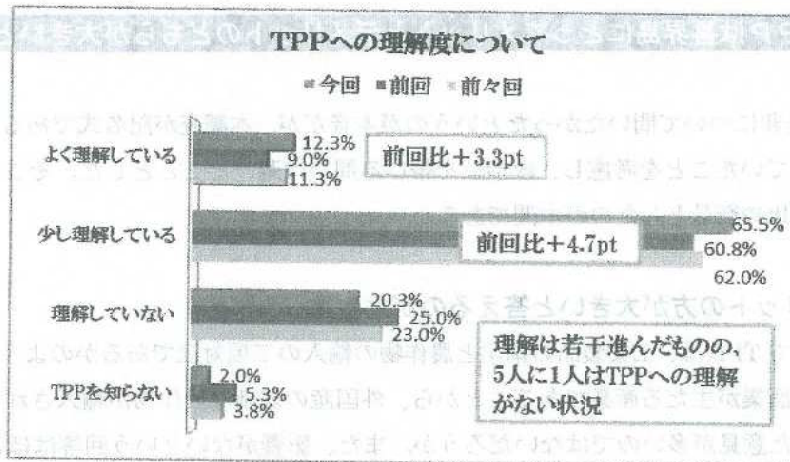
まず留意点として、【わからない】【どちらとも言えない】といった選択肢を設けなかったことについて言及したい。そういった類いの選択肢が設けてあった場合、大多数がそれを選んでしまい、実情を捉えることが難しくなるのではという判断からである。

さて、喜界島の高校生のうちTPPを理解していると自覚しているのは4人に1人で、4人に3人の割合で理解していないと自覚していることが分かった。この数字をどのように見るべきか。参考までに、同様の調査結果を用いて比較検証する。

その調査とは、JA福岡中央会が2013年2月25日から3月1日の期間に、福岡県内に居住する一般消費者400名¹を対象に行った意識調査である(次項の図表における「今回」がこれにあたる)。2013年2月23日未明、日米両国がTPPに関して、「聖域なき関税撤廃が前提でない」ことを確認した趣旨の共同声明を発表した後、TPP交渉参加に向けた党内調整を行っていると報道されたのを受けて実施されたものである。

なお、図表における「前々回」とは、2012年5月27日から5月31日に実施されたものだ。これは、民主党政権下でTPP交渉参加へ前向きな姿勢が強調されていた時期である。また「前回」とは、2012年11月21日から11月27日に実施されたもので、2012年12月の総選挙の争点としてTPP交渉参加が挙げられたことを受け、それに先駆けて実施されたものである。3回の調査はいずれも、同じ調査手法による。

¹意識調査手法として民間の世論調査会社へ調査委託を行い、無作為に抽出した一般消費者の中から、各年代を代表する指標が得られるよう、サンプル数に一定の調整を加えたもの。属性としては、性別に関して男性と女性がそれぞれ200名、年齢層に関して20代、30代、40代、50代以上がそれぞれ100名。支持政党、購読している新聞、職業等、その他の属性について見ても、恣意的な標本抽出の意図は認められない。



(JA 福岡中央会「第3回福岡県 TPPに関する意識調査結果の概要について」7頁より抜粋)

これを見ると、調査時期や選択肢、調査実施地域にこそ単純比較を不可能とする差異があるが、総じて、喜界島の高校生の TPP に対する理解度は、一般的な社会人の理解度に比べ低いと判断して差し支えないだろう。その理由が、高校生であるがゆえに理解力が社会人に比して劣るからであると言えるのか、社会に対する関心が低いからであると言えるのか、はたまた、離島という地理的条件による情報量の格差があると考えられるのかは定かでない。

しかしながら、島の主要産業であるサトウキビ農業の存亡が危ぶまれる状況において、TPP を理解していると自覚するのが4人に1人に留まるという事実には、島の高校生における当事者意識の欠如ないし、問題意識の無さを懸念せずにはいられない。

(畑山悠希)

【問5】 TPPが喜界島に与える影響に関心がありますか。

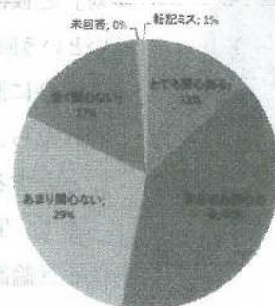
そもそも、島の高校生たちは、TPP が喜界島に与える影響に関心があるのだろうか。この問いにより、高校生の中での TPP に対する問題意識の程度を探ることができると考えた。

仮説 関心があるという人が大多数である

理解しようとしているかどうかは別として、TPP が多くのメディアで取り上げられるなどして話題になっている以上、関心が無いという者はほとんどいないだろう。

結果 TPP が喜界島に与える影響に関心があるのは、半数をわずかに上回る程度

とても関心ある	27
まあまあ関心ある	82
あまり関心ない	60
全く関心ない	34
未回答	1
転記ミス	2



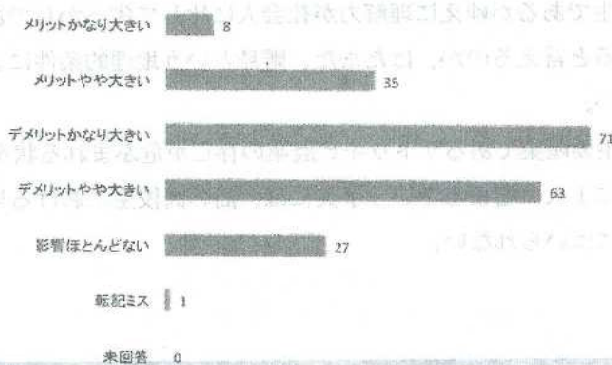
【問6】 TPPは喜界島にとってメリットとデメリットのどちらが大きいと思いますか。

TPP参加の是非について問いたかったというのが本音だが、本調査が記名式であることや担当教員のカラム転記を予定していたことを考慮し、政治色を帯びる問いは避けることとした。そこで、問い方をメリットとデメリットの比較衡量としたのが本問である。

【仮説】 デメリットの方が大きいと答えるのが大多数

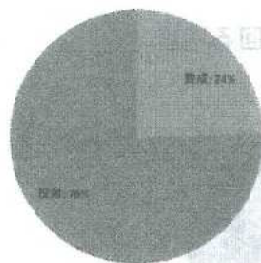
わが国においてTPPは、工業製品の輸出と農作物の輸入の二項対立であるかのように論じられている。喜界島においては農業が主たる産業であることから、外国産の安価な農作物が輸入されることによるデメリットに主眼を置いた意見が多いのではないだろうか。また、影響がないという回答はほとんど無いのでは。

【結果】 TPPは喜界島にとってデメリットの方が大きいとする見方が多数を占める



【デメリットの方がメリットを大きく上回る】(図表中「デメリットかなり大きい」、以下同様)が35%で最も割合として大きく、【どちらかというデメリットの方がメリットを上回る】(デメリットやや大きい)が31%と続いた。【どちらかというメリットの方がデメリットを上回る】(メリットやや大きい)は17%、【メリットの方がデメリットを大きく上回る】(メリットかなり大きい)は4%、【TPPが島に与える影響はほとんどない】(影響ほとんどない)は13%となった。

【考察1】 TPP参加の是非に関する世論調査との比較



左の円グラフは、本問においてメリットの方がデメリットを上回るという回答の総数を「賛成」、デメリットの方が上回るという回答の総数を「反対」と仮にみなし、その割合を示すものである。(よって、影響はほとんどないという回答は反映されていない。)これによれば4人のうち3人は、TPPは喜界島に悪い影響を及ぼすと捉えており、もし彼らがTPP参加の是非を問われたら、「反対」と答えるはずだという仮定のもと、本考察を進めていくこととする。

さて、TPP参加ないしTPP交渉参加の是非については、各メディアによる世論調査が数多く実施された。それぞれの調査時期や調査対象が異なるほか、一部については標本抽出等に恣意的意図が指摘されるものもあった。よって単純比較はできないものの、今回の結果を客観的に捉えるための比較材料としてみる。

朝日新聞 2013年3月16日・17日調査²

【問い】 加盟国間で経済の自由化を進めるTPP、環太平洋経済連携協定について、いくつか伺います。日本がTPPに参加することに、賛成ですか。反対ですか。
賛成 53% 反対 23%
【問い】 TPPに参加することは、日本の経済にとって、どんな影響があると思いますか。(択一)
とてもよい影響 7% ややよい影響 58% やや悪い影響 20% とても悪い影響 7%
【問い】 仮にTPPで農業が自由化されたとしたら、日本の農業にとって、よい面が大きいと思いますか。悪い面が大きいと思いますか。
よい面 24% 悪い面 56%
【問い】 TPPによる農業の自由化で、外国産の安い農産物がたくさん入ってくるのは、よいことだと思いますか。よくないことだと思いますか。
よい 36% よくない 48%
【問い】 TPPに参加することで、食品の安全基準が下がる不安を感じますか。感じませんか。
感じる 71% 感じない 22%

2013年3月15日の安倍首相によるTPP交渉参加表明を受けて実施された世論調査である。総じて農業面については悪影響を懸念する声が多いが、日本経済全体としての影響については、TPP参加はよい影響をもたらすとの意見が多い点で、本問の結果との違いが見える。本問では、TPPは「喜界島にとって」どのような影響を及ぼすかを尋ねており、地域を限定するものである。ここからわかることは、TPPの影響を日本全体で捉えるか、特定の地域³で捉えるかにより、全く異なる調査結果が導かれるということである。また、「日本経済」という語句を用いると工業製品の輸出入を連想しがちで、農業への影響を考慮に入れない傾向にあると感じるのは、私だけだろうか。

今回の調査にあたっては、TPPに関する他の調査データを多く目にしているが、調査実施者が得たい結果が予め前提として存在するかのように、調査方法や調査対象が意図的に調節されているものが少なくない。島の高校生がTPPに関する情報をどこから入手しているかについては【問8】で扱っており、後に譲ることとするが、こういった「データに潜むからくり」を見極めるためのスキルは、どこの誰も教えてくれぬまま社会に出る場合が多いということに気がついた。

考察2 わからないから影響がないとは言えない

TPPが喜界島に及ぼす影響はほとんどないという回答につき、特筆すべき傾向が見られた。続く【問7】においてその理由を尋ねているのだが、本問において【TPP参加により喜界島にほとんど影響はない】としている27名のうち、13名がその理由を「TPPがわからないから」と答えているのである。

本問も【問4】と同じ理由から【わからない】【どちらとも言えない】といった選択肢をあえて設けなかった。このことにより潜在的に抽出できていない意見もあるということを考慮しなければならないが、「TPPのことがわからない⇒喜界島にTPPの影響はない」と結びつけることは、一種の思考停止状態にあると断言することができるのではないだろうか。

（調査員 畑山悠希）

² コンピューターで無作為に作成した番号に調査員が電話をかける「朝日RDD」方式で、全国の有権者を対象に調査（福島県の一部を除く）。世帯用と判明した番号は2657件、有効回答は1553人。回答率は58%。小数点第1位を四捨五入した数値を用いている。

³ このような傾向は、鹿児島県と同じく農業県に数えられる宮崎県においても見られている。宮崎日日新聞社が、2013年7月14～16日に参議院選挙を前に行った電話調査によれば、TPP参加の賛否につき、「賛成」とした人が36.3%で「反対」の32.6%を上回った。同社がこれまでに行った同様の世論調査で、TPP参加賛成が反対を上回ったのは初めてであったそうである。TPPに対する認識の地域差に加え、賛成・反対が逆転するというのは興味深い動向であるものの、調査対象や調査方法につき詳細が公表されていないため、脚注に記すに留める。

[問7] 問6でそのように考えた理由を、できるだけ詳しく教えてください。

[問6]において、TPPが喜界島にもたらす影響としてメリットとデメリットのどちらが上回ると考えるか、はたまた影響が無いと考えられるかを5つの選択肢の中から選んでもらった。その理由を述べてもらうために設けたのが[問7]である。記述式回答とした。

仮説1 「TPP=島のサトウキビが危ない」という意識の存在

喜界島は、奄美群島の中でサトウキビの作付面積の割合が最も大きい。加えて、甘味資源作物交付金をはじめとするサトウキビ生産の政策的支援は、糖価調整法に基づき外国産原料糖の輸入業者から徴収する調整金と政府からの支援により支えられており、TPPの趣旨に鑑みると、この支援体制自体にもメスが入られることが予想できる。これらの理由から、TPPがもたらすサトウキビ農業への消極的影響を危惧する回答が多いのではないかと考えられる。サトウキビ以外の理由は、ほとんど挙げられないのではないかと考えられる。

喜界島においてはゴマの生産も盛んであるが、こちらは現状としてすでに外国産ゴマとの価格差が大きい中で取引されていることから、TPPに関連する問題としては取り上げられないのではないだろうか。

仮説2 具体的な理由・根拠は無い

回答者において TPP に関する知識が十分でなく、明確な意見が述べられない回答者が多いのではないかと考えられる。[問6]であえて【わからない】という選択肢を設けなかった分、この[問7]で抽出できるのでは、

1 (メリットの方がデメリットをおおきく上回る)

2 (どちらかというともメリットの方がデメリットを上回る) と回答した人の理由

- ・親が農業をしているから (普3男)
- ・島はサトウキビとか盛んだから (商3男)
- ・喜界島でたくさんサトウキビを作っているのに、安いところから輸入などしたらもったいない (普2女)
- ・品質が悪い商品よりもすこし品質が高い方が使われると思うし、今まで売ってきた信頼がある。TPP 反対の人は自分の商品が値段ぐらいで負けるとか思っているのか、それとも自分の商品に自信がないのかと思う (普2男)
- ・国内の農産物が売れない分海外の物が安く入り、農業面では低下しても経済的には上がる (普2男)
- ・良いことの方が上回ると思うから (商3男)
- ・ニュースを見たらそう思う (商1男)
- ・日本にとってのメリットになると思うから (商3男)
- ・TPP について良く知らないけど、メリットにと思った (普2女)
- ・島を豊かにしてくれそうだから (商3女)
- ・住みやすくなる (商1男)

3 (デメリットの方がメリットをおおきく上回る)

4 (どちらかというともデメリットの方がメリットを上回る) と回答した人の理由

島の農業や農家へ及ぶ悪影響

- ・島で大切なさとうきびがお金にならなかつたら、やっていけない (普3女)
- ・喜界島は離島だし、サトウキビをいっぱい作っているから (普1男)
- ・島の特産品がサトウキビだから (普2男)
- ・サトウキビは島の宝だから (普2女)
- ・サトウキビが売れなくなるから (商3男, 商3女, 商2男, 商1男, 普1男, 普1女)
- ・サトウキビは、中国から安いものが入ってきていると聞いたから (普2女)
- ・外国のサトウキビは国産よりも安いから、外国産が売れると思うから (普1男)

- ・喜界島特有のサトウキビやゴマなどがあまり売れなくなるのではないかと思ったから (商1女、商1男)
- ・TPP 参加に伴い、サトウキビや黒糖、他の特産物が安く提供せざるをえないことになるから (商3女)
- ・サトウキビなどの値が下がる (商1男、普1女)
- ・黒糖などの特産品が別の国からの輸入で売れなくなるから (普1男)
- ・喜界島のほとんどは農家だから (普3女、普2女、商1男、普1男)
- ・農家の人が大変だから (普2女、商1女)
- ・農業などが多くて、その産業に被害が出ると思うから (普2男、商1男)
- ・島は農業が盛んだから (商3男、普2男、普2女、商2女)
- ・農業を中心に稼いでいるから (商2女)
- ・農業で生計を立てている人にはきついと思う (普2男)
- ・TPP で外国から安い物が輸入されると、喜界島は主にさとうきびを作って生計を立てている方が多いので、とてもデメリットになる (普2女)
- ・島で農業をしている、お年寄りや後継者を苦しめるだけだと思うから (商3女)
- ・もし TPP に参加して、さとうきびが高くなったら、農業をしている人たちは生活していけなくなる。それに、島民のほとんどが農業をしている人たちなんだから、ちゃんと考えてほしい (普1女)
- ・農家が困るので参加しないでほしい (商3男)
- ・さとうきびが売れなくなる心配があると思ったけれど、さとうきびってそのまま出荷するんじゃなくて、造酒とか、黒糖とかに加工してから出荷が多いので、本当に島のさとうきびが売れなくなることは無いと思った (普3女)
- ・サトウキビは保障されているけどメリットは上回らない (普3女)
- ・TPP で外国から安い物が輸入されると、喜界島は主にさとうきびを作って生計を立てている方が多いので、

農業への悪影響が他に波及する可能性

- ・輸入ばかりに頼って、喜界島のサトウキビが売れなくなる。サトウキビが売れなくて喜界島のサトウキビをつくる人が減る (普2男)
- ・喜界島はほとんどさとうきびで成り立っているので、外国産のさとうきびが安く、たくさん売れると、喜界島は成り立たないから (普1女)
- ・外国の安い黒糖がたくさんきたら、島の黒糖が売れ残り、島の経済が崩壊するかもしれないから (商1男)
- ・サトウキビが産業の中心なのに売れなくなると、もっと島にお金が無くなり、観光客も全く来なくなるから (普1女)
- ・島の産業は主にさとうきびやゴマなどの農業なので、国外の物が安く売れると、国内や島の物が高くなって困る (普1女)
- ・日本の農業が有利でなくなることがあるのなら、今の農業者が減るから (商3男)
- ・農業をやっている人が多い。特に高齢者が農業をやっているから (普3女)
- ・確かに TPP の影響で苦しくなるが、ほとんどの農家は副業をしているから大丈夫だと思う (商1男)
- ・島よりも安いサトウキビやゴマなどの農産物が海外から国内に入ってきて、島の物が売れなくなってしまっただけだから (普2女)

島の産業の国際競争力

- ・外国の安価なサトウキビが入ってくると、島のさとうきびは売れなくなり、お金が入ってこなくなるため (普1男)
- ・喜界島の産業に大きく影響を与えるから、サトウキビが外国から輸入されるようになると、喜界島の産業が厳しくなるから (商1男)

- ・サトウキビに依存しすぎている島の農業が、外国の安い代用品に勝てるとは思えない (商2男)
- ・工業は発展するかもしれないが、喜界島は農業が中心の島だと思うので、外国から安い農作物が入ってくると、島の産業がダメになるから (普3男)
- ・島は農業がさかんだから外から安い物が入って来ると少なからず農家は困る。しかし、物が貧しいという面もふまえると、一概にそれは言えない。だから「どちらかというデメリット」 (商1女)
- ・喜界島の産業は、サトウキビに依存していると思うので外国から安い砂糖が大量に入ってくると太刀打ちできないと思うから (普3男, 商3女)
- ・外国の農産物が安く売られていたら、いくら時刻の物の方が安全だといっても、そちらを買う人が増えると思うから (普3女)
- ・外国のやつの方が安くなれば、そっちを選びそう (普1女)
- ・外国の安い品物が入ってきて、島の物が売れなくなるから (普1女)
- ・外国の安い物が入り、島の高価な物が売れなくなるから (普3男)
- ・外国の物が多く入ってきて、日本の物が安くなるから (商1男)
- ・喜界島の物が売れなくなる (普3女, 商1女)

農業以外の影響

- ・医療の負担が増加する恐れと、農作物に与える影響 (普3女)
- ・医療費が全て自己負担になる可能性があることや、サトウキビが安くで売れてしまうというようなことを聞いたから (普1女)
- ・デメリットがたくさんありそうだったから (商3女)

まわりの意見から

- ・テレビで TPP に反対する人を見るから (普3男, 商2男, 商2女, 普1女)
- ・島の農業関係者の TPP への考えや様子を見る限り、TPP が与える影響によいものがあるとは思えないため (普2男)
- ・みんなが反対しているから (商1女)
- ・まわりがあれだけ反対と言っているのでそう思った (普2男)
- ・父親が製糖工場に努めていて、TPP について不満を言っていたから (普2男)
- ・父がそう言っていたため (商3男)
- ・そういう風に親から聞いた (商1女)
- ・反対する人が多いから (普2女)
- ・みんなの意見が合わなく、デメリットの方が多く出ると思うから (普1女)
- ・おとなから聞いたから (普2男)
- ・そのような事を聞いたから (商3女)
- ・TPP 反対っていう旗みたいなのを見たことがある (普2女)
- ・詳しくは分からないが島に「TPP 絶対反対」的な看板があるため (普2男)

その他

- ・日本の農家や漁業の人の産物が売れなくなる (普1女)
- ・決まった方針もなく、曖昧なままで、国民でも TPP を知らない人がいるからデメリットの方が多い (商2女)
- ・喜界島にとって TPP はなんのメリットも無いと思うから (商3男)
- ・日本に有利となる事が無いと思うから。今の日本は弱い (普2男)
- ・「TPP」といったら悪いイメージがあるから、島にも悪いことの方が多いと思ったから (普2女)
- ・あまりいいメリットを聞いたことが無い (商2男)
- ・税金がなくなり、金が無くなりじいやばあちの金が少なくなる (商2男)

- ・悪影響だから（普2女）
- ・関係ありそうだから（普2女）
- ・あまり考えたことが無い（商1女）

5（TPP参加が島に与える影響はほとんどない）と回答した人の理由

- ・外国の品より国産の方が安心があるから、みんな今あるのかよくわからない（普2女）
- ・島は、実際に影響があまりないから（商1男）
- ・TPPについてよく知らないから、島に影響は無いと思っている（商1男）
- ・まで通りだと思ふ（商3女）
- ・離島だから（普1男）
- ・TPP 自体をよく理解していないから、農業で生活している人は多いとはいえ、こんなに小さな島に影響が

考察1 やはり TPP で思い浮かぶのは島のサトウキビ農業への悪影響だが、その先に

（1）桶屋論「TPPの風が吹いた」

仮説1に対する考察である。TPPが島に及ぼす影響としてデメリットの方が大きいとする回答の理由として、島のサトウキビ農業への悪影響が圧倒的多数であった。しかしながら、TPPが島のサトウキビ農業に悪影響を及ぼすことを前提として、そこから更に踏み込んだ回答が見られ、そこに回答者ごとの見解の相違が垣間見える結果となり、興味深かった。

輸入サトウキビとの価格競争の結果として島の農業自体が衰退するというレベルまで危惧している意見もある一方で、島のサトウキビの価格下落を招くだけで済むという意見もある。このほか、サトウキビを中心とした農業の担い手が激減し、結果として島の人口が減ってしまうという長期的な影響を想定している回答や、サトウキビと「車の両輪」の関係にあるといえる製糖工場や酒造会社といったサトウキビの2次産業への影響にまで言及した回答もあった。いずれにせよ、回答者の中に「喜界島はサトウキビの島」という確固たるイメージが形成されており、これが真っ先にTPPと結びつくのだろう。

（2）サトウキビが島で担う役割はどこまで

鹿児島県では、TPP参加により砂糖の関税等が撤廃された際、県内のサトウキビに関連する産業に与える損失額を380億円と試算している¹。内訳は、さとうきびの生産減少額が150億円、製糖工場が115億円、地域経済が115億円となっている。

島でのサトウキビ生産が減れば、規模の経済性からして、製糖工場も立ち行かなくなることだろう。これはすなわち雇用への影響、ひいては島からの人口流出とも容易に結びつく。喜界島がサトウキビの島であるということは、島の人と生活を語る上でもサトウキビは切っても切れない関係にあるということである。喜界島においてサトウキビが産業面で担っている役割を改めて慎重に調査する必要があると痛感する次第だが、他方で、島の景色からサトウキビ畑が無くなるのを想像した時、サトウキビが担っているもう一つの役割について考えさせられる。

島の眺望と環境である。島の全景を見渡すことのできる百之台展望台にて、眼下に広がるのはサトウキビ畑だ。喜界島の耕地は、島の総面積56.94平方キロメートルの35.5%にあたる20.20平方キロメートル。主要作物であるサトウキビの作付面積はそのうちの61.5%を占める12.43平方キロメートルというから、納得であ

¹ 鹿児島県「TPP参加により関税撤廃された場合の本県農業・関連産業への影響（試算）」
http://www.pref.kagoshima.jp/ag01/sangyo-rodo/nogyo/kokusai/fta_epa/documents/tppeiyou.pdf
 ※2013年8月21日現在、上記URLは削除されている

る。仮にサトウキビの栽培が難しくなったとして、他に台風の到来に耐える作物は他に無く、元のサトウキビ畑の活用方法は容易に見つからないことだろう。

いわゆる耕作放棄地²が及ぼす影響として、雑草の繁茂等による病害虫・鳥獣害の発生、用排水施設の管理への支障、さらに、ゴミの無断投棄、火災発生の原因となることが考えられている。オオゴマダラをはじめとする喜界島固有の動植物への影響もさることながら、人々の日常生活にも関わる問題となりかねないのである。また、土が海へ流れることにより、サンゴに由来する白い砂浜とそれによる青い海という南国らしい景色も見られなくなるかもしれない。

考察2 喜界島産サトウキビに関して「いいものは売れる」が成立するか

(1) わが国の砂糖事情

わが国の砂糖の総供給量は、2010 砂糖年度³に 208.6 万トン（精糖換算）となっている。内訳は、国産糖の生産量が 65.5 万トン（甘しゃ糖 15.6 万トン、てん菜糖 49.0 万トン）、海外からの輸入量が 143.1 万トンで、供給量に占める国産糖の割合は 31.4%である⁴。また、食料需給表を基に精糖ベースで計算される品目別の食料自給率は、2010 年度に 26%（概算）となっている⁵。我が国の原料糖の輸入元はタイ（107.2 万トン）、オーストラリア（25.5 万トン）、フィリピン（8.2 万トン）の順で、上位3国で9割以上を占めているが、TPPによりサトウキビの関税等が撤廃されたと仮定して、喜界島産サトウキビに影響を及ぼすのは、オーストラリア産のサトウキビとなることだろう。

農水省は、砂糖は国産と外国産に品質格差がないことを前提としてTPPの影響を試算しており、国産糖のすべてが外国産の精製糖に置き換わるとのことである。国産の甘味資源作物が引き取られないため国産糖の生産減少額は1500億円にのぼり、調整金収入の約500億円も失われるとしている⁶。

(2) サトウキビの優位性

・外国の品より国産の方が安心があるから、みんな今まで通りだと思う（商3女）

・品質が悪い商品よりもすこし品質が高い方が使われると思うし、今まで売ってきた信頼がある。TPP反対の人は自分の商品が値段ぐらいで負けるとか思っているのか、それとも自分の商品に自信がないのかと思う（普2男）

これらは、喜界島産ないし国産の農産物と外国産の農産物の品質の違いに着目し、前者の優位性を述べている回答であると思われる。サトウキビに話を戻すと、一般的に外国産に比べ、喜界島で作られたサトウキビには、安全・安心・高品質の印象がある。しかしながら、確固たるデータが無い以上、実際のところはわ

² 「耕作放棄地」は農林業センサスに定義されている統計用語で、過去1年以上作物を栽培せず、しかも数年の間再び耕作する考えの無い土地のことである。

³ 砂糖の年単位の需給動向等が論じられる際、甘味資源作物の生育サイクルに合わせた「砂糖年度」が多く用いられる。砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律では、砂糖年度は毎年10月1日から翌年9月30日までの期間と定められている。

⁴ 農畜産業振興機構「統計資料（国内情報）」
http://sugar.alic.go.jp/japan/data/jd_data.htm（2013年8月21日閲覧）

⁵ 農林水産省「食料自給率の推移」
http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/pdf/22sankou4.pdf（2013年8月21日閲覧）

なお、品目別の食料自給率は一般に、国内消費仕向量に占める国内生産量の割合で求められる。ただし、砂糖類の場合は精糖の国内生産量のうち、輸入した原料（粗糖）で生産される分は控除して計算される。また、精糖の輸入量には、輸入加糖調製品等に含まれる砂糖の量を換算して繰り入れている。

⁶ 農林水産省「農林水産省試算（補足資料）」（2012年10月27日付）
http://www.maff.go.jp/j/kokusai/renkei/fta_kanren/pdf/siryou3.pdf（2013年8月21日閲覧）

からない。(これはTPPで取り沙汰されている他の農作物の全てについて同様に言えることなのかもしれない。) サトウキビは、栽培方法はもちろんのこと、作物自体のポテンシャルとして品質に違いの生じる植物なのか。製糖技術でしか差は生まれないのか。つまり、喜界島産サトウキビが他に比較して「いいもの」であると胸を張って売り出していけるのかという疑問が生まれる。

我々の喜界島での取材調査によれば、サトウキビは、台風を受けても自力で起き上がるという。台風などにより収穫の被害や糖度不足の問題が生じることは承知だが、「台風で倒れても商品になる作物」であるといえることができる。以前、黒糖焼酎を製造する工場取材をした時、外国産と国産のサトウキビの違いについて見解を伺ったのだが、風味の違いのほかに、外国産サトウキビの荒唐には不純物が混じっていることを挙げておられた。となると、製糖技術の向上を以てすれば、国産の「安心・安全・高品質」というイメージを外国産の「安さ」が乗り越えていく想像をしてしまう。また、サトウキビの収穫量が少なくなれば工場の稼働率は下がり、製糖コストを低減することができず、ますます外国産サトウキビの安さが浮き彫りとなっていくことだろう。

(2) 認識されてこそ「いいもの」

喜界島産サトウキビならびに国産サトウキビに関して「いいものは売れる」と言い切れるかという不安の根拠はこれだけではない。砂糖の用途別消費割合は、2010年度に家庭用が14.1%、残り85.9%を占める業務用は菓子類が26.8%、清涼飲料が20.5%、乳製品が10.1%などとなっている⁷。「いいものは売れる」という商品選別の意識は、生産コストにシビアな製造業者よりも、一般消費者に期待するところであるが、先のデータが示すように、砂糖の用途として一般消費者の目に触れるのはわずかである。

また、数多ある製品を選択する基準は人それぞれで、一定程度で農業を保護する政策が展開されている今こそ、「日本の農作物は品がいい」という漠然としたイメージを抱いていても、自由貿易により世界が競争相手となると、これまでと比にならない外国産農作物の販促キャンペーンが行われ、我々の商品選択の価値判断に影響を及ぼすことだろう。

考察3 TPPの問題意識に大きな差

仮説2に対する考察である。このアンケートには記述回答を求める問いがいくつかあり問7もそのうちの1つであったが、白紙回答とそれに準じる回答であった割合が最も高い。白紙回答や「わからない」のほか、「直感」「何となく」「TPPについて分からない」という回答は合計108名に見られ、TPP自体を理解していない生徒や、TPPと喜界島を結びつけられていない生徒が半数を占めるということが分かった。メディアや身近な人間から得られる情報を受領するにとどまり、自分自身でTPPについて考えた経験があまり無いと推測する。(TPPに関する情報の入手経路については、問8で調査している。)

一方で、理論立てて理由を述べていた回答も少数ながら見られた。現時点では、喜界高校の生徒の中で、TPPに対する問題意識に大きな振れ幅が存在する。これは喜界島全体についても言えることなのだろうかという疑問が生まれた。

(畑山悠希)

⁷ 農林水産省「砂糖のすべて～原料の生産から製品まで～」(2012年4月付)

http://www.maff.go.jp/j/seisan/tokusan/kanmi_sigen/pdf/120412_sugar_all.pdf (2013年8月21日閲覧)

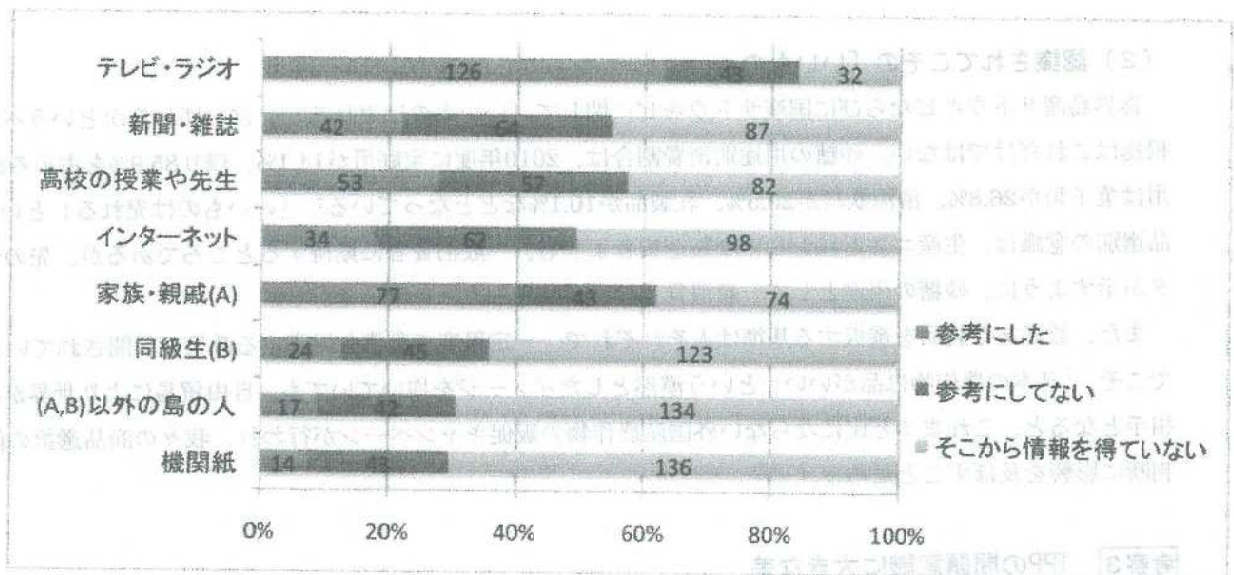
[問8] TPPに関する情報の入手経路を教えてください。

TPP参加に対する反対意見が多く聞かれるという仮説のもと、島の高校生がそのように考えるにつき、判断材料となる情報をどこから入手しているか、どのメディアに影響を受け易いのかを調べるための問いである。

仮説 テレビと家族・親族からの影響が強い

家族や親族がサトウキビといった農作物を栽培して生計を立てているなどして、TPPが家庭での話題にのぼることが多いのではないかと。高校生自身にとってTPPは当事者意識に欠ける分、いわゆる「大人の意見」に影響を受け易いのではないかと。また、メディアの中では接触機会が最も多いと思われるテレビからの情報をもとに、TPPについて考えることが多いのではないだろうか。

結果 テレビ・ラジオ¹が圧倒的、機関紙はあまり目にふれていない



この問いにおける【インターネット】は、ホームページ閲覧のほか、SNSやTwitter等を含み、【機関紙】とは、JAや政党、企業など、ある団体や組織がその主義や活動を広報するための刊行物のことを指す（調査用紙に同注）。TPPについてJAが頻繁にメッセージを発している印象を受けていたため【機関紙】という選択肢を設けたのだが、予想に反してそこから情報を得る者は少なかった。

【その他】の欄には「TPP絶対反対の看板が島内に設置されている」との回答があった。誰が何の目的で設置したのか、調査したいところである。

考察 高校でTPPは話題にのぼっているのか

【テレビ・ラジオ】【家族・親族】に続き【高校の授業や先生】がTPPの情報源として多く回答されていたのは、意外なことであった。それにも関わらず【問5】で関心の低さが明らかとなったのは残念な気もする。同級生との間でTPPについて話すことは、少ないようだ。思い起こせば、私も高校生の時に時事問題について友人と語り合ったことは無かったが、授業でディベートのテーマとされていた記憶がある。（畑山悠希）

¹ 選択肢において【テレビ・ラジオ】【新聞・雑誌】のように複数メディアを一括りにしてしまったことで、1つに特定できなかったのは、調査票の作成段階におけるミス。

喜界島の人口と高校生の離島 [2問]

喜界島の人口は、2011年10月1日現在の推定人口が、約1,000人である。このうち、喜界島の人口の約10%は、喜界島の高校に在籍している。喜界島の高校は、喜界島の人口の約10%を養育している。喜界島の高校は、喜界島の人口の約10%を養育している。

喜界島の人口は、2011年10月1日現在の推定人口が、約1,000人である。このうち、喜界島の人口の約10%は、喜界島の高校に在籍している。喜界島の高校は、喜界島の人口の約10%を養育している。

第3部

喜界島の人口は、2011年10月1日現在の推定人口が、約1,000人である。このうち、喜界島の人口の約10%は、喜界島の高校に在籍している。喜界島の高校は、喜界島の人口の約10%を養育している。

喜界島の人口と高校生の離島



喜界島の人口は、2011年10月1日現在の推定人口が、約1,000人である。このうち、喜界島の人口の約10%は、喜界島の高校に在籍している。喜界島の高校は、喜界島の人口の約10%を養育している。

喜界島の人口は、2011年10月1日現在の推定人口が、約1,000人である。このうち、喜界島の人口の約10%は、喜界島の高校に在籍している。喜界島の高校は、喜界島の人口の約10%を養育している。

喜界島の人口は、2011年10月1日現在の推定人口が、約1,000人である。このうち、喜界島の人口の約10%は、喜界島の高校に在籍している。喜界島の高校は、喜界島の人口の約10%を養育している。

喜界島の人口は、2011年10月1日現在の推定人口が、約1,000人である。このうち、喜界島の人口の約10%は、喜界島の高校に在籍している。喜界島の高校は、喜界島の人口の約10%を養育している。



1000	喜界島の人口
100	喜界島の高校に在籍している人口
900	喜界島の高校に在籍していない人口
100	喜界島の高校に在籍している人口

[問9] あなたと同居する家族にU・Iターン者がいますか

本問では、同居する家族にU・Iターン者がいるかどうかを聞いた。ここでのUターン者とは、喜界島出身者で、他地域に定住の後、喜界島に移住した者のことであり、Iターン者とは、喜界島でないところの出身者で、喜界島に移住した者のことである。

仮説 ほとんどの高校生の家族にUターンやIターン経験者が存在する。

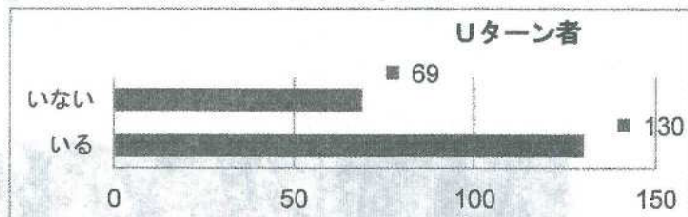
島の人口推移を見ると、人口は減っているものの、世帯数に大きな増減はなかった。また、5歳ごとの人口を見ると20～24歳で一旦大きく落ち込み、次第に増えていることから、特にUターン者が多いのではと考えた。

結果 Iターン者がいると答えた人よりUターン者がいると答えた人の方が多い

仮説通りになった。今後はどのようにしてUターンの時期を決めたのか、なぜIターンで島に移住したのかについて、島での聞き込みを通じて調査したい。

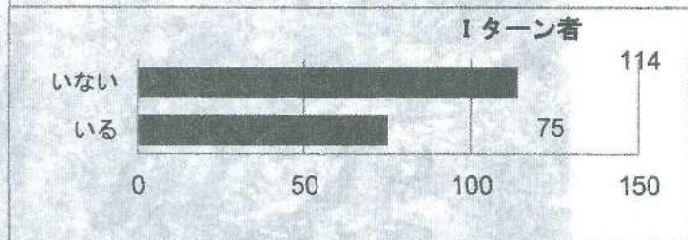
Uターン者が同居する家族に

いる	130
いない	69
未回答	5
転記ミス	2



Iターン者が同居する家族に

いる	75
いない	114
未回答	16
転記ミス	1



[問10] 「Uターン」という言葉に対するあなたのイメージを一つだけ選んでください。

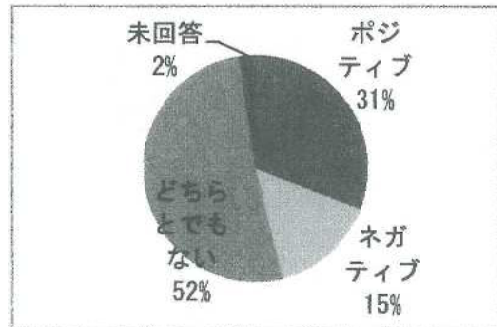
本問では、Uターンに対するイメージを聞くことによって、島に戻ることを肯定的に捉えているのか、否定的に捉えているのか、どちらでもないかを調べようとした。加えて、移住者募集につきUターンという言葉をつかうべきか否かについてもヒントを得たい。

仮説 ネガティブなイメージは少なく、どちらかというともポジティブに捉えている

島の年齢5歳階級人口をみると、20歳～24歳で落ち込み、25歳から人口が増えている。このことから、Uターンは珍しいことではなく、ネガティブなイメージと捉えているとは考えにくい。

結果 どちらでもないが最多、ネガティブよりもポジティブの数が約2倍

ポジティブ	63
ネガティブ	31
どちらでもない	105
未回答	7



【問11】 卒業後の進路希望（予定）を教えてください。

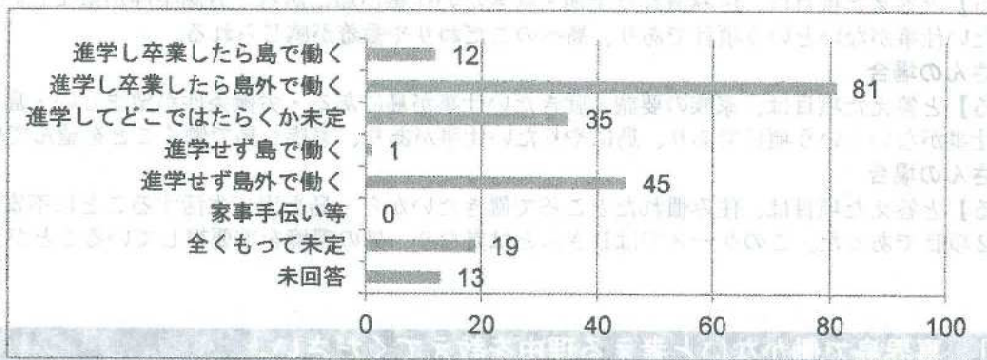
高校生が自分の進路についてどのように考えているのかを知るため、この問を設けた。また【問9】や【問10】でU・Iターン者の有無、Uターンのイメージを聞いたのは、それらが高校生の進路選択に影響を与えているのを見るためである。

仮説 進学で島を離れたり、島外で働く人は多く、島に残る人は少ない。

年齢5歳階級人口をみると、20～24歳の人口が最も少ない。また、島には求人がないと言われることから、進学で島を離れたり、島の外で働く人が多いと仮定した。

結果 進学の有無に関わらず高校を卒業したら島を出ると答えた高校生が多い。

【進学し卒業したら島で働く】【進学せず島で働く】と答えたのは、206人中わずか13人という結果になった。【進学し卒業してどこで働くかは未定】と答えたのが35人、【全くもって未定である】と答えたのが19人の計54人であることから、どこで働くかについて見通しの立っていないのは全体の4分の1であることがわかる。また、学年別に見てみると、学年が下がるほど進路未定の生徒が多くなる傾向があった。3学年に共通していることは、数が最も多いのは【進学し、卒業したら喜界島ではないところで働く】という選択肢であり、卒業したら島を出ようと考えている高校生が多いということである。



【問12】 喜界島で働こうと考える理由を教えてください。

本問では、【問11】で【進学し、卒業したら喜界島で働く】または【進学はせず、喜界島で働く】と答えた13名を対象にし、9つの質問項目ごとに【該当する】【該当しない】の二択で答えてもらった。質問項目は、我々が立てた仮説である。

仮説1 家業を継ぐから → **結果** 13名中3名が【該当する】と答えた。

仮説2 住み慣れた土地で働きたいから → **結果** 13名中9名が【該当する】と答えた。

仮説3 島で働くようにと家族や親戚の要請があるから → **結果** 13名中5名が【該当する】と答えた。

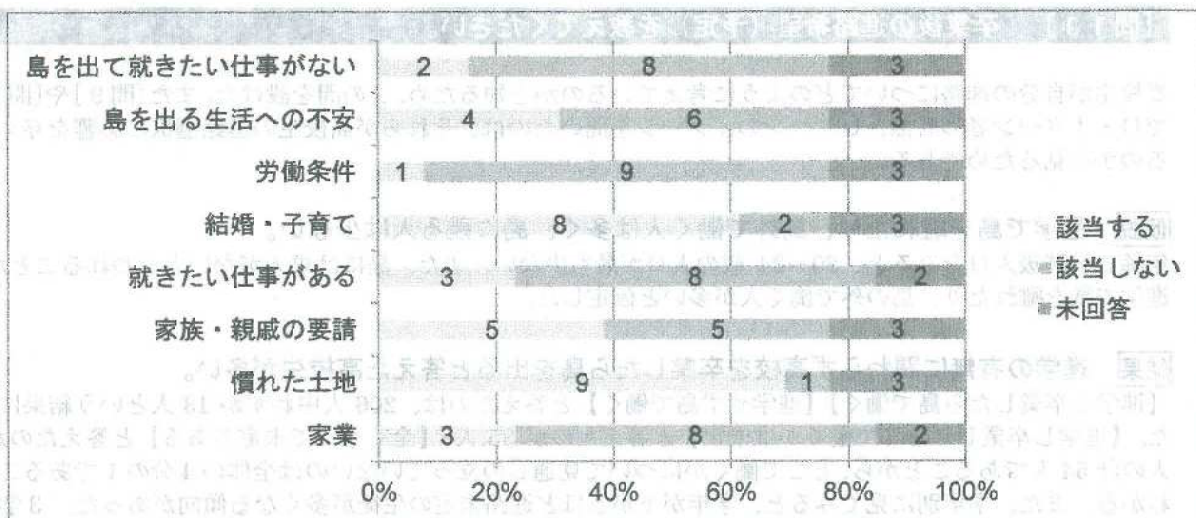
仮説4 就きたい仕事(家業を含む)が島にあるから → **結果** 13名中3名が【該当する】と答えた。

仮説5 島で結婚や子育てをしたいから → **結果** 13名中8名が【該当する】と答えた。

仮説6 労働条件(賃金等)が望ましいから → **結果** 13名中1名が【該当する】と答えた。

仮説7 島を出て生活することに不安を感じるから → **結果** 13名中4名の生徒が【該当する】と答えた。

仮説8 島を出てまで就きたい仕事がないから → **結果** 13名中2名が該当する【該当する】と答えた。



事例 Aさんの場合

【該当する】と答えた項目は、住み慣れた土地・就きたい仕事がある・労働条件が望ましい・島を出てまで就きたい仕事がないという項目であり、島へのこだわりや愛着が感じられる。

事例 Bさんの場合

【該当する】と答えた項目は、家族の要請・就きたい仕事がある・労働条件が望ましい・島を出てまで就きたい仕事がないという項目であり、島にやりたい仕事があり、家族も島で働くことを望んでいる。

事例 Cさんの場合

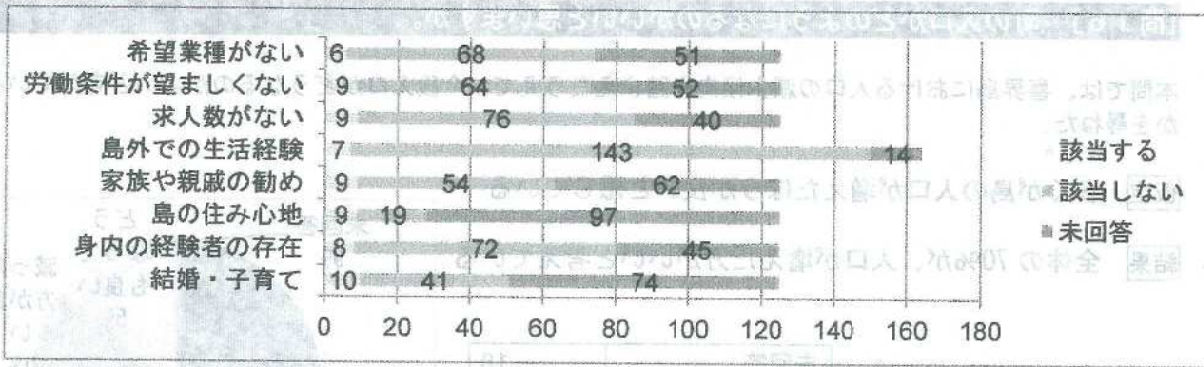
【該当する】と答えた項目は、住み慣れたところで働きたいから・島を出て生活することに不安を感じるからという2項目であった。このケースではBさんとは異なり、島の環境を重要視していることが分かった。

【問13】 喜界島で働かないと考える理由を教えてください。

本問では、[問11]で【進学し、卒業したら喜界島ではないところで働く】または【進学はせず、喜界島でないと働く】と答えた89名を対象にし、9つの質問項目ごとに【該当する】【該当しない】の二択で答えてもらった。質問項目は、我々が立てた仮説である。

- 仮説1 就きたい業種の仕事がないから → **結果** 89名中34名が【該当する】と答えた。
- 仮説2 労働条件（賃金等）が望ましくないから → **結果** 89名中48名が【該当する】と答えた。
- 仮説3 島に選べるだけの求人数が無いから → **結果** 89名中29名が【該当する】と答えた。
- 仮説4 島外での生活の経験があった方がいいと思うから → **結果** 89名中58名が【該当する】と答えた。
- 仮説5 家族や親戚が当該で働くのを勧めるから → **結果** 89名中29名が【該当する】と答えた。
- 仮説6 島自体の住み心地が良くないと感じるから → **結果** 89名中11名が【該当する】と答えた。
- 仮説7 家族や親戚に島外で働いた経験のある人がいるから → **結果** 89名中39名が【該当する】と答えた。
- 仮説8 島外で結婚や子育てをしたいから → **結果** 89名中21名が【該当する】と答えた。

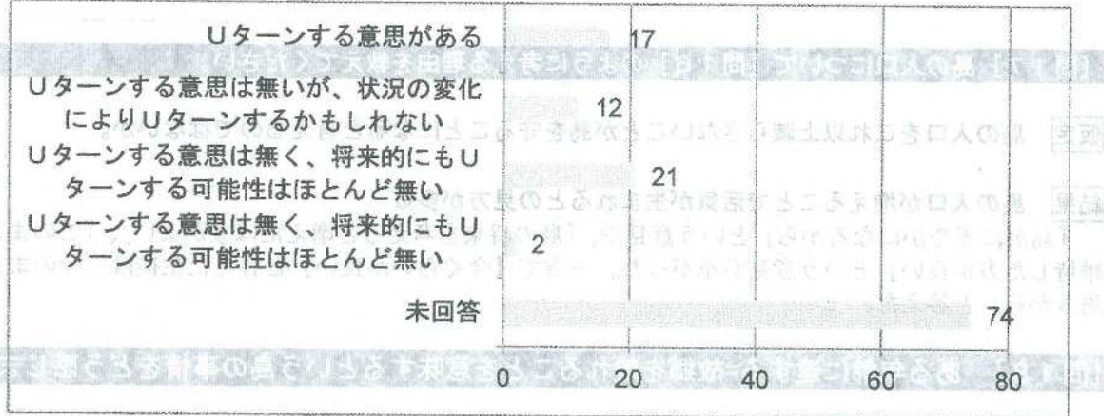
問13～問15については、設問の誘導ミスによりデータの正確性が欠けている



【問14】 喜界島を離れた後、喜界島にUターンする意思は現時点でありますか。

本問では、現時点でのUターン意志について尋ねた。

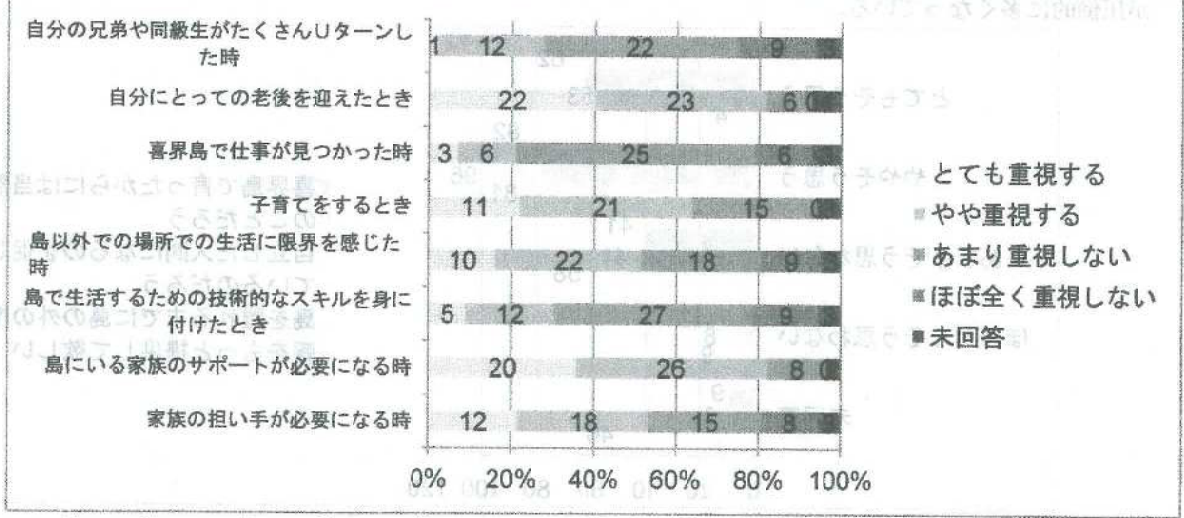
仮定 時期は決めていないがUターン意思を有する者が多いのでは
結果 Uターン意思が明確に存在するのは17名(全体の13%)、状況などによりUターンするのは12名



【問15】 あなたがUターンする時期やきっかけとして重視する条件を選んでください。

【問14】でUターンする意思の有無を尋ねたが、その中からUターンをする意思がある者を対象とし、その具体的な時期やきっかけを9つの項目について【とても重視する】【やや重視する】【あまり重視しない】【ほぼ全く重視しない】の4択で答えてもらった。

仮定 家庭の事情を重視する生徒がおおいのではないか
結果 家族の事情をUターンのきっかけとし、自分の老後は島で暮らしたいという意見が多い



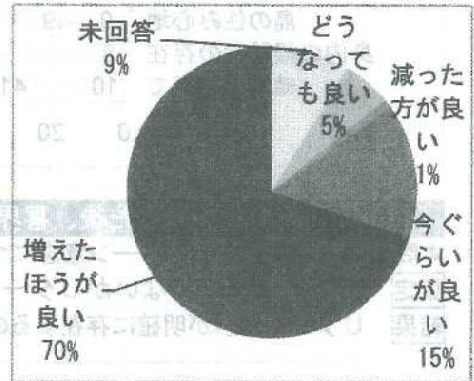
【問16】 町の人口がどのようにするのがいいと思いますか。

本問では、喜界島における人口の減少傾向を踏まえたうえで、今後人口がどうなるのがよいと考えているのかを尋ねた。

仮定 多くが島の人口が増えたほうが良いと感じている

結果 全体の70%が、人口が増えたほうが良いと考えている

未回答	18
どうなっても良い	11
減った方が良い	2
今ぐらいが良い	31
増えたほうが良い	144



【問17】 島の人口について【問16】のように考える理由を教えてください。

仮定 島の人口をこれ以上減らさないことが島を守ることになると考えるのではないが。

結果 島の人口が増えることで活気が生まれるとの見方が多数

「島がにぎやかになるから」という意見や、「島の将来を考えると増えたほうがよい」、「このままの人口を維持した方がよい」という意見が挙げられた。一方で【今ぐらいが良い】と答えた生徒は「今のままが良いと思うから」と答えた。

【問18】 ある年齢に達する=故郷を離れることを意味するという島の事情をどう感じますか。

喜界高校の生徒は卒業後にそのほとんどが島を離れるということをふまえ、そういった事情が高校生の中でどのように認識されているのかを尋ねる目的で設けた問いがある。

仮説 島を離れることは仕方がないことだが、一度は離れたほうが良いと感じている

結果 島をはなれることに対して肯定的な意見を持つ生徒が多かった。

【喜界島で育ったからには当然のことだ】と捉えているのは206名中144名となり過半数を占めた。また、【自立した人間になるのを促しているのだろう】という仮説についても、肯定的な意見が多かった。【島を離れるまでの情報をもっと提供して欲しい】という項目については、【とてもそう思う】より【ややそう思う】が圧倒的に多くなっている。

